

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 葉山町の結果について（小・中学校）

## 目次

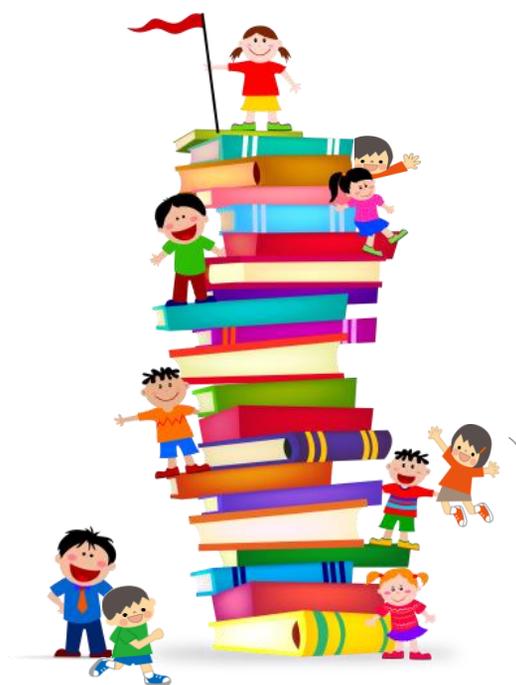
葉山町教育委員会

### 1 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査の方式
- (3) 集計児童・生徒及び学校数（葉山町立小・中学校関係）
- (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

### 2 小学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
  - ア 全体の傾向
  - イ 国語
  - ウ 算数
- (2) 児童質問紙に関する調査の結果
  - ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について
  - イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について
  - ウ ICTを活用した学習状況等について
  - エ 学校外での過ごし方について



### 3 中学校に関する調査結果の概要

- (1) 教科に関する調査の結果
  - ア 全体の傾向
  - イ 国語
  - ウ 数学
- (2) 生徒質問紙に関する調査の結果
  - ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について
  - イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について
  - ウ ICTを活用した学習状況等について
  - エ 学校外での過ごし方について

### 4 葉山町教育ビジョンに基づく学力向上に向けた葉山町の方 性

令和6年4月18日に実施した「令和6年度 全国学力・学習状況調査」について、葉山町立小・中学校の児童・生徒の学力等の状況は、概ね次のとおりです。

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(出典：令和6年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領[文部科学省])

### (2) 調査の方式

悉皆調査(対象は小学校第6学年、中学校第3学年)

【参考】 \*平成19年度～平成21年度：悉皆調査

\*平成22年度～平成24年度：抽出調査(※平成23年度は震災で中止)

\*平成25年度～令和6年度：悉皆調査(※令和2年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休校で中止)

\*平成24年度から理科を追加。理科は3年に1度程度の実施。

\*平成31年度(令和元年度)から英語を追加。英語は3年に1度程度の実施。

### (3) 集計児童・生徒及び学校数(葉山町立小・中学校関係)

○集計児童・生徒数

※4月18日に調査を実施した児童・生徒数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	274	68,293	954,978
中学校	243	59,592	877,072

○集計学校数

※4月18日に調査を実施した公立学校数

公立	葉山町	神奈川県	全国
小学校	4	853	18,495
中学校	2	418	9,322

※児童・生徒数及び学校数ともに、小学校は特別支援学校小学部、義務教育学校(前期)、中学校は中等教育学校(前期)、特別支援学校中学部、義務教育学校(後期)を含む。

※調査の全部または一部を実施した人数・学校数。

### (4) 調査結果の解釈等に関する留意事項

○本調査の結果から読み取れることに関して、次のような点に留意する必要がある。

・令和6年度の実施教科は小学校が国語、算数の2教科、中学校が国語、数学の2教科である。調査については、学習指導要領の全てを網羅するものではないことから、児童・生徒が身につけるべき学力の特定の一部であること。

・年度により問題の質が異なるため、学力の向上・低下の傾向を正答率のみで容易に評価することは難しいこと。

(用語説明)

○国語、算数、数学ごとの平均正答率は、それぞれの教科の平均正答数を設問数で割った値の百分率(概数)

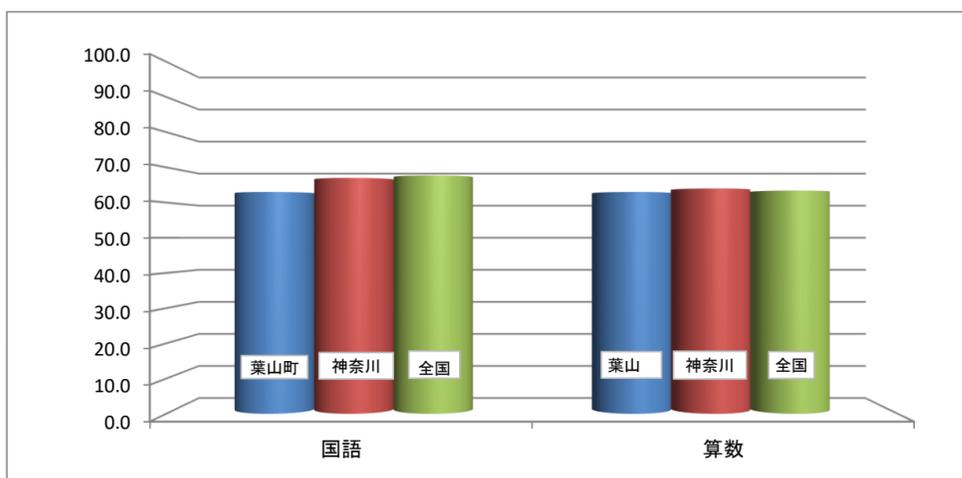
○学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答した児童・生徒数を全体の児童・生徒数で割った値の百分率

## 2 小学校に関する調査結果の概要

### ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	63.0	67.0	67.7
算数	63.0	64.0	63.4



- ・ 国語の調査結果は、全国平均の正答率に比べると、全体で4.7ポイント下回っている。
- ・ 算数の調査結果は、全国・県の平均正答率と比較して約±1ポイントの範囲内である。

### イ 国語

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」は、ほぼ全国平均となっている一方、思考力・判断力・表現力に係る「読み取り」、言語事項(漢字を正しく使う等)については、全国・県平均を大きく下回っている。</li> <li>・ 表現活動に関わる情報収集の仕方やまとめ方について理解がみられるが、反面、文から文意を読み取ったり趣旨を理解したりすることに課題が見られる。</li> <li>・ 全体的に無答率が高いことが課題である。これは記述式に限らず、選択問題においても同様である。</li> </ul>	
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に 関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が4～12ポイント低い。例年、中学年配当の漢字に課題がみられる。</li> <li>・ 文中の主語と述語との関係を捉える問題では、正答率が全国平均より5ポイント低い。</li> </ul>
	情報の扱い方 に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「情報と情報の関係付けの仕方」、「語句と語句との関係を図等で表す方法」などについての理解をはかる問題では、正答率が全国平均を上回っている。</li> <li>・ 読書の記録から適切なものを選択する問題であるが、無答率は低い。</li> </ul>
	我が国の言語文化に 関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかを見みる問題では、全国平均を12.6ポイント下回っている。</li> <li>・ 例示された読書の記録がどのような趣旨で書かれているのかを選択肢の中から選ぶ問題では、正解率は全国平均より12.6ポイント低い上に、無回答が26.3%もある。</li> </ul>
思考力、判断力、表現力等	話すこと 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「話すこと・聞くこと」のいずれの問題も、全国の平均正答率を上回っている。</li> <li>・ ①目的や意図に応じて話題を決め内容を検討する ②資料を活用して自分の考えが伝わるよう工夫する ③目的や意図に応じて集めた資料を分類したり関係づけたりして伝えたいことを明確にする など、話したり聞いたりするための方法については概ね理解できている。</li> </ul>
	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「書くこと」に関わる問題は、全国の平均正答率と同程度である。</li> <li>・ 指定された文章の続きを【メモ】を基に60字以上100字以内で書くことについては、概ね全国平均と同等に書けている。</li> </ul>
	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係する2つの文章を読み、文の意図をさぐったり、着目することからについて読み取ったりする問題では、いずれも全国平均の正答率を7～18ポイント下回っている。</li> <li>・ 物語を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く問題では、全国平均正答率を17.9ポイント下回っている。また、無解答率が30.7%と非常に高い。</li> </ul>

- 課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。
- ・ 文部科学省では読解力の低下の原因として「読書などで長文に触れる機会が減った」、「子どもの言語環境がSNS等による短文のやりとりの増加で長文に触れる機会が減った」こと等が要因と分析している。葉山町でも読書の好き嫌いが国語の正答率と大きな相関性があった(令和5年度のクロス集計。令和6年度は読書の設問なし)ことから、「読書習慣」の育成が読解力の向上に不可欠であると考えている。「時間が足りない」、「無回答が多い」などの要因についても、「長文を読み通せない」、「長文に圧倒され解答する気力がなくなる」等が原因となっているのではないかと考えられる。読書の習慣をつけ、長文に慣れることでこれらが解消されていくものと思われる。そこで、以下の対策が重要となってくる。
  - ①読書習慣をつけること  
短い時間でも本を開く機会を増やすことで、読書のきっかけづくりとする。
  - ②音読の機会を増やす  
「音読には、自分が理解しているかどうかを確認する働きや自分が理解したことを表出する働きなどがある」(学習指導要領)ため、読解力の育成に寄与する。また、練習すればするほど上達し、成果が児童自身にも感じられることから、達成感を味わわせることも出来る。
  - ③説明文など、図や資料と関連付けて書かれた文章を読む機会を増やす。  
読書習慣の中でも、文章を「吟味しながら読む」、「資料と関連付けて読む」など、これからの社会で求められる「読解力」を身に付けるには、物語文だけに偏らずに説明的な文章にも多く触れることが大切である。
- 今後の取組のポイント

	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の習得について改善が見られない状況が続いている。漢字は、取り組みが成果につながりやすいことから、以下に配慮して指導していきたい。             <ol style="list-style-type: none"> <li>①「表意文字」である特徴を生かし、成り立ちや構造を理解させる。</li> <li>②「へん」や「つくり」の意味、同音異義語など漢字同士の共通点や意味の違いなど関連付けて学ばせる。</li> <li>③低・中学年の漢字が、高学年で学ぶ漢字の基礎となることから、全学年で取り組み、身に付けていくことが大切である。</li> </ol>             漢字は単独ではなく、文の中で意味を捉えるものであるため、文を読ませたり書かせたりする中で、意味や使い方を捉えさせるようにする。           </li> <li>無回答率を下げる              普段の授業の中で、「誤りを誤りで終わらせない」雰囲気づくりが大切。たとえ正しくなくても、「勇気をもってよく手を挙げた」「工夫して書こうとしている所が良い」など、児童の積極的な姿勢を萎えさせない普段からの言葉かけが大切である。           </li> </ul>
--	---

## ウ 算数

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「数と計算」領域では、除数と商の大きさの関係についての理解に課題があった。「変化と関係」領域では、基本である「速さ」の意味の理解に課題があった。どちらも知識・理解に関わる問題であり、それぞれの単元における知識・技能という基礎部分に課題があった。一方で「道のりと時間」の関係など、「思考・判断・表現」を問われた問題については、全国平均より7ポイント近く高かった。どの領域にも共通した傾向として、「思考・判断・表現」の観点からみると、葉山町で取り組んでいる授業改善の成果が見られる様になったのではないかと。一方で「知識・技能」の観点では課題が幾分増えている。</li> </ul>
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる問題では、正答率が全国平均より4.5ポイント低かったが、除数が小数である場合の除法の計算については概ね正答だった。</li> <li>数量の関係を□を用いた式に表す問題については、正答率が89.8%と、とても良く出来ていた。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>球の直径と立方体の一辺の長さの関係を捉える問題では、全国平均を上回っていたものの正答率は37.6%と高くなかった。</li> <li>角柱の面の数の求め方について記述する問題については、75.9%の児童が正答であった。昨年の課題であった、図形における思考力や判断力を求める問題について改善がみられた。</li> </ul>
変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>速さの意味について理解しているかどうかをみる問題について、全国平均より8.1ポイント低かった。</li> <li>速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題では、全国平均より割合が6.6ポイント高かった。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ活用については、いずれの問題も全国・県の平均正答率とほぼ同程度であった。</li> <li>円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題は83.2%、二次元の表を読み取り分類整理する問題では83.2%の児童が正答した。</li> </ul>

今後の取組のポイント	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「思考・判断・表現」の観点で授業改善の成果が見られる一方、「知識・技能」の観点では課題が幾分増えている。児童の主体的な学びを促す活動を現状の通り続けながら、「知識・技能」に関わる基礎的な部分については、繰り返し立ち止まり内容を確認させるなどの手立てを講じる必要がある。</li> <li>速さの意味理解や除数と商の大きさの関係など、基礎知識の理解に課題があった。単元の最初に習う基本的事項、定義などにおいて、単元が進むごとに繰り返し確認する様な作業が必要である。指導者側も、児童が簡単に物事を習得できると考えるのではなく、繰り返し繰り返し伝える必要があることを認識しておく。</li> <li>物事を視覚的・論理的に考えられる様に、低学年時には、計算で数と具体物を結び付けて操作したり、考えたりする機会を十分に繰り返し行うようにすることが大切である。また、学年が上がっても常に具体物をイメージして処理したり考えたりする機会を設け、その数の意味するところを理解できるように指導する。</li> <li>図や表を用いて、物事を論理的に捉える機会を様々な場面で取り入れる。</li> </ul>
------------	---

(2)児童質問紙に関する調査の結果

＜抽出項目について＞  
 「葉山のスクールミッション」に深く関連している項目(「学習に対する興味・関心や授業の理解度」、「挑戦心・自己有用感・幸福感等」、「ICTの活用」、「学校外での過ごし方」)に関わる設問を児童質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭・地域と連携しながら、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。

ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出	小学校		
	葉山町	神奈川県	全国
① 国語の勉強は好きですか	66.7	62.4	62.0
② 国語の勉強は大切だと思いますか	92.1	94.7	94.5
③ 国語の授業の内容はよく分かりますか	86.0	86.5	86.3
④ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.1	93.4	93.2
⑤ 算数の勉強は好きですか	64.9	61.6	61.0
⑥ 算数の勉強は大切だと思いますか	93.6	94.8	94.6
⑦ 算数の授業の内容はよく分かりますか	80.3	81.2	82.1
⑧ 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	76.3	78.1	77.9
⑨ 英語の勉強は好きですか	67.0	68.3	69.3
⑩ 英語の勉強は大切だと思いますか	89.9	92.9	91.1
⑪ 英語の授業の内容はよく分かりますか	77.1	77.6	78.3
⑫ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め、整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	82.1	80.7	81.3
⑬ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	91.7	87.1	88.2
⑭ 解答時間は十分でしたか(国語) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	36.1	63.0	68.5
⑮ 解答時間は十分でしたか(算数) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	70.5	84.9	84.2

主な特徴と考察	多くの児童が学ぶ楽しさを感じながら、意欲をもって取り組んでいると推測される。ほとんどの設問において全国・県と大きな差は見られなかった。昨年度の調査では、全国平均に比べ①が-2.6ポイント、⑤が-4.4ポイントであったので、国語や算数の学習を好意的に感じる児童の割合が大きく伸びたことがわかる。一方、児童が学んだ内容がしっかりと定着する手だてが必要である。個別最適で協働的な学び、「わかる」「できる」授業を一層心がけたい。また、⑭の国語の解答時間については6割以上の児童が不十分と回答しており、これは昨年度も課題となっていた。限られた時間の中で必要な情報を読み取り、自分の考えをまとめて表現するために、インプットとアウトプットを意識した授業改善が必要である。 ⑫・⑬の設問では、全国・県の値を上回っている。話し合い活動や表現活動を重視したりしてきた成果であると推測される。一方的な知識伝達型の指導から学び合いの授業スタイルへと、継続して取り組んでいくことが必要である。
---------	--

## イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出	小学校		
	葉山町	神奈川県	全国
① 自分には、よいところがあると思いますか	89.3	84.5	84.1
② 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	89.6	89.2	89.9
③ 将来の夢や目標を持っていますか	82.1	80.4	82.4
④ 人が困っているときは、進んで助けていますか	91.4	92.5	92.7
⑤ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5	96.4	96.7
⑥ 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	61.6	65.1	67.1
⑦ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	96.4	95.8	95.9
⑧ 学校に行くのは楽しいと思いますか	85.0	85.0	84.8
⑨ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.8	76.9	75.8
⑩ 友達関係に満足していますか	90.3	90.9	91.1
⑪ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (「よくある」「ときどきある」と回答した割合)	92.1	91.9	91.7
⑫ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	80.0	81.5	80.7
⑬ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	86.4	83.8	83.5
⑭ 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか	73.9	70.2	67.6
⑮ 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	80.7	83.3	81.9
⑯ 5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	84.6	80.5	79.6
⑰ 5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	82.4	83.6	84.3
⑱ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	88.9	86.3	86.3
⑲ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	81.7	80.0	80.8
⑳ 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	85.0	83.0	83.7
㉑ 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	93.9	91.5	91.6

<p>主な特徴と考察</p>	<p>自己肯定感、規範意識に関連する設問では全国・県よりも高い値を示している。特に①の設問ではおよそ5ポイント近く高い数値を示しており、素直に自分のよさを認められる児童が多いことがうかがわれる。また、⑪の設問とともに「ウェルビーイング」に大きくかわる指標であり、学校生活のあらゆる場面で、一人ひとりが活躍できるような機会や場面を意図的につくるなど、今後重点的に向上を図っていきたい。</p> <p>一方、⑥の値がやや低い。学校がすべての児童にとって安全・安心な居場所になるよう、全校への設置が進んだ校内教育支援センターの活用や、教職員がより一層児童に寄り添う意識の醸成、ゆとりの創出が必要である。</p> <p>⑨・⑭・⑱から、自分の考えが伝わるように工夫して発表したり、友達の考えからさらに自分の考えを深め、広げたりする活動によく取り組んでいることがわかる。協働的な学びの中での高め合う児童の姿がますます多く見られることが期待される。</p>
----------------	--

ウ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		小学校			
		葉山町	神奈川県	全国	
①a	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	95.3	89.5	85.5	
①b	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合の合計	40.5	29.6	25.3	
②	5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。	(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	76.7	87.0	85.5
		(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	90.0	93.0	92.1
		(3) 楽しみながら学習を進めることができる	77.4	87.2	86.0
		(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	85.7	90.4	89.8
		(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	74.5	80.5	79.2
		(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	85.0	88.1	86.1
		(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる	82.5	87.4	87.1
③	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊び目的除く） ※「1時間以上」と回答した割合の合計	26.9	19.2	19.8	

主な特徴と考察	<p>令和3年度の一人1台のタブレット端末の導入以降、授業の中で、調べる、整理する、まとめる、発表する、交流するといった各場面で、端末を「道具として」使いこなす姿が日常的に見られるようになっていく。</p> <p>①a、bの設問については、依然高い数値を保っており、ICTを活用した授業づくりが定着してきていることを表している。一方で、②(1)～(7)の回答はいずれも全国・県の値を少し下回っており、端末を利用することの良さを児童が実感できるよう、より効果的な活用の仕方について検討する必要がある。</p> <p>また、③から、家庭でのICT機器の活用も進んでいることが分かる。今年度からAIドリルを導入したこともあり、端末の持ち帰りを促進し、家庭での学習への活用についても定着させたい。</p> <p>引き続き、児童の資質・能力の育成のための一つの手立てとして、ICTの効果的な活用について促進していきたい。</p>
---------	---

エ 学校外での過ごし方について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		小学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	95.7	93.6	93.7
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	82.8	82.2	82.9
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	88.6	91.1	91.6
④	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか ※「2時間以上」と回答した割合	41.9	46.2	49.2
⑤	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） ※「2時間以上」と回答した割合	27.9	31.8	33.8
⑥	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	69.9	73.5	71.1
⑦	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む）	51.9	56.7	54.6
⑧	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾・家庭教師・オンライン学習も含む）	21.9	25.5	21.5

主な特徴と考察	<p>朝食の喫食率や就寝・起床など、基本的な生活習慣についてはおおむね全国・県と同様の傾向を示している。</p> <p>④・⑤のゲームやSNS、動画視聴の時間に関する設問では、全国・県の値を下回っているものの、それぞれ1割程度の児童は「4時間以上」と回答している。⑥の値の低さからも、家庭と連携した児童支援が必要な状況である。</p> <p>家庭での学習については、取り組む時間だけでなく内容が大切であるが、前述のAIドリルの導入でより効率的な学習が可能になるため、家庭学習のあり方を再考することも重要である。今後も家庭・地域と連携を深め、一体となって児童の育ちを見守っていきたい。</p>
---------	---

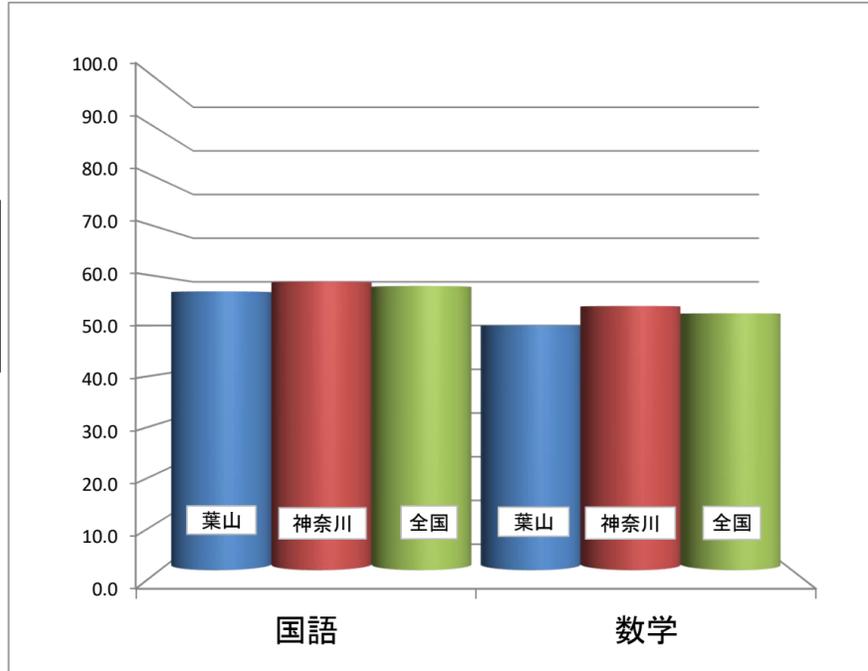
### 3 中学校に関する調査結果の概要

#### (1) 教科に関する調査の結果

##### ア 全体の傾向

【平均正答率 %】

	葉山町	神奈川県	全国
国語	57.0	59.0	58.1
数学	50.0	54.0	52.5



・ 国語、数学の調査結果ともに、全国・県の平均正答率±5%範囲内であるため、全国・県と比較してもほぼ同程度と考えられる。

##### イ 国語

結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかを見る」、「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかを見る」、「行書の特徴を理解しているかどうかを見る」、「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかを見る」問題では、全国・県の平均正答率より下回っているが、それ以外は、全国・県と同程度の正答率である。無解答率は全国・県を上回っている問題が多かった。</li> </ul>	
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に 関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「文の成分の順序や照応」、「表現の技法」の理解を見る問題は、全国・県と同程度の正答率である。</li> <li>「文脈に即して漢字を正しく書くことをみる」問題は、全国・県の平均正答率より下回っており課題があると考えられる。</li> </ul>
	情報の扱い方 に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかを見る」問題は、全国・県と同程度の正答率である。</li> <li>「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかを見る」問題は、全国・県の平均正答率より下回っており課題があると考えられる。</li> </ul>
	我が国の 言語文化に 関する事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>「行書の特徴を理解しているかどうかを見る」問題は、全国・県の平均正答率より下回っており課題があると考えられる。</li> </ul>
思考力、 判断力、 表現力等	話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかを見る」問題では、全国の平均正答率をおよそ3%上回っている。また「資料を用いて、自分の考えがわかりやすく伝わるように話すことができるかどうかを見る」問題については、全国・県の平均正答率と同程度である。「話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかを見る」問題では、およそ9%全国・県の平均正答率より下回っている。</li> </ul>
	書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる」、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる」問題は、全国・県の平均正答率と同程度である。</li> </ul>
	読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>この領域の問題の平均正答率は、全国・県の平均正答率と同程度である。</li> </ul>

今後の取組の ポイント	<p>○課題の改善に向けて、以下のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体と抽象など情報と情報との関係については、身近な情報の中から具体と抽象の関係になっている事例を取り上げ、それぞれの概念と実際の事柄とを結びつけて理解することが大切である。そのためには、報告や解説などの文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする学習活動の中で、具体と抽象の関係について指導することが大切である。</li> <li>聞き手に自分の考えを伝える際には、わかりやすく伝わるように資料を用いるなどして表現を工夫することが重要である。資料や機器を用いることで、話の要点や根拠を明確にし、中心となる事柄を強調することで、聞き手に分かりやすく伝えることができる。また、授業中に加え自分の考えが伝わる文を書く場面を設定し、これをもとに他者と話し合うことが必要である。</li> <li>漢字指導に十分な時間を割けない中で、文を書く際には、既習の漢字を使う学習をするとともに、物語や説明文など様々な文を読む際に、文脈の中で使われている漢字に着目し、必要に応じその漢字の読み・書きをするなど、多角的に漢字学習をすることで身に付けることが大切である。</li> <li>文章を読んで内容を理解したり、理解したことを伝えたりするには、目的に応じて必要な情報に着目して要約することが必要である。文章全体の内容を短くまとめたり、情報を他者に伝えるために必要な部分を取り出してまとめたりするなど、その目的や必要に応じて、内容や分量、方法が異なるということを理解し、適切に要約することができるように指導することが大切である。</li> </ul>
----------------	---

## ウ 数学

結果の概要	・ 記述式により説明や証明をする問題について、平均正答率が全国・県ともに下回っている。また、問題形式が記述式の問題は、無解答率が多く見られる。問題形式が選択式の問題は、全国・県の平均正答率と同程度である。
数と式	・ 「連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる」、「等式を目的に応じて変形することができるかどうかを見る問題」、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる」、「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題は、全国・県の平均正答率より下回っており課題があると考えられる。
図形	・ 「筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる」問題は、全国・県の平均正答率より下回っており、無回答率が44%程度と多く、課題があると考えられる。
関数	・ 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる」問題は、全国・県の平均正答率より下回っており課題があると考えられる。これ以外の関数の問題では、全国・県の平均正答率と同程度である。
データの活用	・ 「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかを見る」問題は、全国・県の平均正答率を下回っており、無解答率がおよそ40%であり課題があると考えられる。

今後の取組のポイント	<p>○課題の改善に向けて、次のような取組が考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図形の移動について考察する際に、図形がきまりにしたがって移動している様子を観察し、移動前と移動後の二つの図形の関係を捉え、図形の移動の性質を見いだす活動を取り入れることが効果的である。</li> <li>・ 事柄が成り立つことを証明できるようにするためには、証明の方針を立て、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。</li> <li>・ 日常的な事象を含む具体的な場面における問題を一次関数とみなして問題解決することや、表、式、グラフを用いて解決できるようにするために、問題解決の構想を立てたり、問題解決の過程や結果を振り返ったりする活動を取り入れることが重要である。その際、表、式、グラフを活用し、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明できるように指導することが重要である。</li> <li>・ データの分布の傾向を読み取って判断し、その理由を数学的な表現を用いて的確に説明できるようにすることが大切である。その際、判断の理由を、提示された資料などを根拠として、数学的な見方・考え方を活用しながら、判断の理由を論理的に示す指導が必要である。</li> </ul>
------------	--

## (2)生徒質問紙に関する調査の結果

<p>&lt;抽出項目について&gt;</p> <p>「葉山のスクールミッション」に深く関連している項目(「学習に対する興味・関心や授業の理解度」、「挑戦心・自己有用感・幸福感等」、「ICTの活用」、「学校外での過ごし方」)に関わる設問を生徒質問紙の中から抽出しています。これらの結果から、成果と課題を振り返り、今後の授業づくりに必要な視点を見出し、家庭・地域と連携しながら、さらなる充実を図ることをねらいとしています。なお、小学校から中学校への学びの連続性を考慮し、小・中共通の設問を抽出し分析しています。</p>
--

### ア 学習に対する興味・関心や授業の理解度について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出	中学校		
	葉山町	神奈川県	全国
① 国語の勉強は好きですか	67.4	66.2	64.3
② 国語の勉強は大切だと思いますか	94.6	94.4	93.9
③ 国語の授業の内容はよく分かりますか	87.0	83.8	82.7
④ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	89.3	91.3	90.6
⑤ 数学の勉強は好きですか	64.3	59.2	57.2
⑥ 数学の勉強は大切だと思いますか	82.0	86.5	87.2
⑦ 数学の授業の内容はよく分かりますか	81.2	77.7	75.7
⑧ 数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	54.4	57.8	57.2
⑨ 1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	67.0	73.0	68.8
⑩ 1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	85.8	86.2	82.4
⑪ 1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	81.6	86.9	85.7
⑫ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	92.3	90.8	91.7
⑬ 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	91.2	84.0	82.2
⑭ 解答時間は十分でしたか(国語) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	65.9	78.0	74.5
⑮ 解答時間は十分でしたか(数学) ※「時間が余った」「ちょうどよかった」と回答した割合の合計	68.6	77.5	73.6

主な特徴と考察	<p>小学校同様、多くの生徒が学ぶことの大切さを理解し、意欲をもって学習に取り組んでいることが推測される。また、③・⑦から、「分かる授業」を心がけた授業改善が進んでいると見られる。一方、⑧・⑨・⑩は全国・県より低い値となっている。生徒が学んでいることと生活を結びつけられるよう、日常の場面に即した学習課題を設定したり、考えを自分の言葉で表現し、伝え合う活動を意図的に設けたりしていくことが大切である。</p> <p>⑬については全国・県を大きく上回り、昨年度の値からも大きく上昇している。町が推進し、学びづくり推進事業でも全校のテーマとして取り組んでいる「探究的な学び」が各校で展開されているものと見られる。今後、各教科においても、探究的な学びの視点での授業改善が期待される。</p>
---------	--

## イ 挑戦心・自己有用感・幸福感等について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	自分には、よいところがあると思いますか	86.6	82.8	83.3
②	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	90.0	90.4	90.4
③	将来の夢や目標を持っていますか	62.9	65.1	66.3
④	人が困っているときは、進んで助けていますか	90.0	89.6	90.1
⑤	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	96.6	94.9	95.7
⑥	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	65.1	66.7	67.5
⑦	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.3	94.8	95.2
⑧	学校に行くのは楽しいと思いますか	81.6	84.5	83.8
⑨	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	78.1	76.5	76.2
⑩	友達関係に満足していますか	91.9	89.7	90.1
⑪	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか (「よくある」「ときどきある」と回答した割合)	92.0	90.0	89.8
⑫	分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	81.6	79.1	78.6
⑬	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	82.4	74.1	76.1
⑭	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	85.5	73.3	64.8
⑮	1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	85.8	81.6	80.3
⑯	1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	79.7	77.2	75.4
⑰	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	77.0	80.4	80.9
⑱	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	88.1	85.5	86.1
⑲	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.6	77.4	77.9
⑳	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	74.0	78.0	79.0
㉑	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	93.4	92.4	92.3

主な特徴と考察	<p>自己肯定感、規範意識に関連する設問では全国・県と同程度の値を示している。①・⑩の「ウェルビーイング」にかかわる設問については、小学校同様、やや高い値となっている。</p> <p>⑨・⑭・⑱から、自分の考えが伝わるように工夫して発表したり、友達の考えからさらに自分の考えを深め、広げたりする活動によく取り組んでいることがわかる。これは小学校でも比較的高い値となっており、表現活動や話し合い活動を重視してきた成果が積みあがっていると推測される。</p> <p>また、⑬で高い値となった。総合的な学習の時間を中心に、地域の方と協働した学びが増え、自分の住む葉山のことを考える機会が増加した結果とみられる。</p> <p>一方、③の将来の夢や目標に関する値がやや低い。スクールミッションで目指す「夢や目標を見つける力、みつけたときに行動できる力が学べる学校」に直結するものであり、キャリア教育を含めて、生徒が未来への希望をもてるような学びや働きかけが必要である。</p>
---------	--

ウ ICTを活用した学習状況等について

(百分率)

質問紙より抽出		中学校			
		葉山町	神奈川県	全国	
①a	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合の合計	96.1	91.9	89.0	
①b	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか ※「ほぼ毎日」と回答した割合の合計	71.6	31.5	31.0	
②	1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。	(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる	78.6	81.8	80.2
		(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる	94.3	94.7	93.9
		(3) 楽しみながら学習を進めることができる	73.2	83.1	82.4
		(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる	85.8	89.9	89.0
		(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる	71.2	78.1	77.7
		(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	83.5	86.4	86.2
		(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる	84.3	84.8	85.2
③	学校の授業時間以外に、普段（月曜～金曜）、1日あたりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか (遊びなどの目的に使う時間は除く) (1時間以上)	14.2	17.1	16.6	

主な特徴と考察	<p>令和3年度の一人1台のタブレット端末の導入以降、授業の中で端末を「道具として」使いこなす姿が日常的に見られるようになってきている。</p> <p>①a、bの設問については、依然高い数値を保っており、ICTを活用した授業づくりが定着してきていることを表している。一方で、②(1)～(7)の回答はいずれも県平均を少し下回っており、端末を利用することの良さを生徒が実感できるよう、より効果的な活用の仕方について検討する必要がある。</p> <p>また、③から、端末の持ち帰りを促進し、今年度導入したAIドリルを含めて、ICT機器の家庭学習での活用について定着させたい。今後も、生徒の資質・能力の育成のための有効な手立てとして、ICTの積極的な活用が望まれる。</p>
---------	---

エ 学校外での過ごし方について

※数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合の合計(百分率)

質問紙より抽出		中学校		
		葉山町	神奈川県	全国
①	朝食を毎日食べていますか	88.1	90.0	91.2
②	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	75.1	76.4	80.7
③	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	86.2	90.3	92.5
④	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか ※「2時間以上」と回答した割合	46.0	49.8	48.9
⑤	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く） ※「2時間以上」と回答した割合	56.8	59.4	55.9
⑥	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか	74.8	74.6	72.2
⑦	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師、オンライン活用学習含む）	68.6	71.5	64.3
⑧	土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※「1時間以上」と回答した割合（学習塾で勉強している時間や家庭教師、オンライン活用学習含む）	37.2	42.9	36.2

主な特徴と考察	<p>昨年度に比べ、特に基本的な生活習慣の②就寝に関する設問で改善が見られた。引き続き学校と家庭との連携を図り、規則正しい生活習慣の大切さを伝え、改善、定着させていくことが大切である。</p> <p>④～⑥のゲームやスマートフォンに関する設問では、全国・県の平均に比べて大きな差はないが、半数以上の生徒が平日2時間以上（合計すれば4時間以上の生徒も）、ゲームやSNS、動画視聴等をしていることになり、その影響の大きさを考慮した生徒支援が必要である。</p>
---------	--

## 4 葉山町教育ビジョンに基づく学力向上に向けた葉山町の方向性

葉山町教育ビジョンに基づき、主に次の5点について取組を推進します。

### (1) 小中一貫教育の推進

各教科と関連した総合的な学習の時間で9年間をつなぎ、自ら考えて行動する力を探究的な学びで育みます。  
「知能及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱にそって教科ごとの目標を設定し、9年間を見通した合理性のあるカリキュラムを構築します。

#### 【関連施策】

- 小中一貫教育の推進
- 教科担任制の推進
- かながわ学びづくり推進事業

### (2) 認知能力・非認知能力の育成

教育に精通する民間企業とともに、教科学習における非認知能力の教育効果測定を研究しながら、非認知能力が認知能力に与える影響についても調査し、認知能力・非認知能力の定点観測を継続することによって、学校の「どのように学ぶか」のあり方検討を支援します。

連携協力に関する協定を締結している大学の非認知能力やウェルビーイングに関する国際的な研究機関から一部助力を得ながら、各校で実施している学校評価（非認知能力の測定）方法について助言を受けることによって、学校の「何ができるようになるか」のあり方検討を支援します。

#### 【関連施策】

- 東京学芸大学との連携協定
- ベネッセコーポレーション（株）との共同研究

### (3) 専門家や指導主事による伴走の充実

探究的な学び・支援教育・外国語教育・ICT教育といった、これからの葉山の学びの柱となる分野で、指導主事及び教員等がより専門的で実践的な助言が受けられるよう「楽校教育推進アドバイザー」制度の充実を図ります。

教員一人ひとりの学びに関する好奇心を原動力に、様々なアイデアを教育施策へ反映したり、学校内や他校への横展開を図ったりするため、実務者で構成する「教育委員会・学校プラットフォーム」を運営します。

指導主事及び教員等で、今日的な教育課題に先進的に取り組んでいる地域や学校を視察し、その結果を楽校改革戦略会議や教育委員会への報告する機会を設けることによって、学びの変革を実現する教員の育成を進めます。

#### 【関連施策】

- 葉山町楽校改革推進アドバイザー制度
- 教育委員会・学校プラットフォーム
- 先進地視察事業

### (4) アセスメントに基づく個に応じた支援策の確立

町として支援の進む方向を示し、関係者の目線を合わせ、取り組みを常に見える化させるため、支援教育推進指針を改定するとともに、一人ひとりの特徴や、得意・不得意なこと、関心ごと等を客観的に評価・分析し、児童生徒に対する支援体制の充実を図ります。

個別最適な学びの場の保障のため、支援が必要とされる児童生徒の個別の支援計画・指導計画を充実させるとともに、その対象を、通常級における支援が必要な児童生徒へ拡大します。

#### 【関連施策】

- 校内教育支援センターの設置・充実
- 支援教育ソフト「LITALICO」の導入

### (5) ICTの効果的な活用

AIドリル、児童生徒支援のための教職員用ソフト、体育等の場面で映像をもとに協働して課題解決するためのICTツール、世界中で活躍する大人たちの映像から多様な生き方や価値観に触れることができるICTプログラムなど、ICTを活用した学びをより活性化させます。

#### 【関連施策】

- AIドリル
- 教育ICTサービスの導入